

「特別支援教育概論」

教育学部 立入 哉

1. 授業の目的

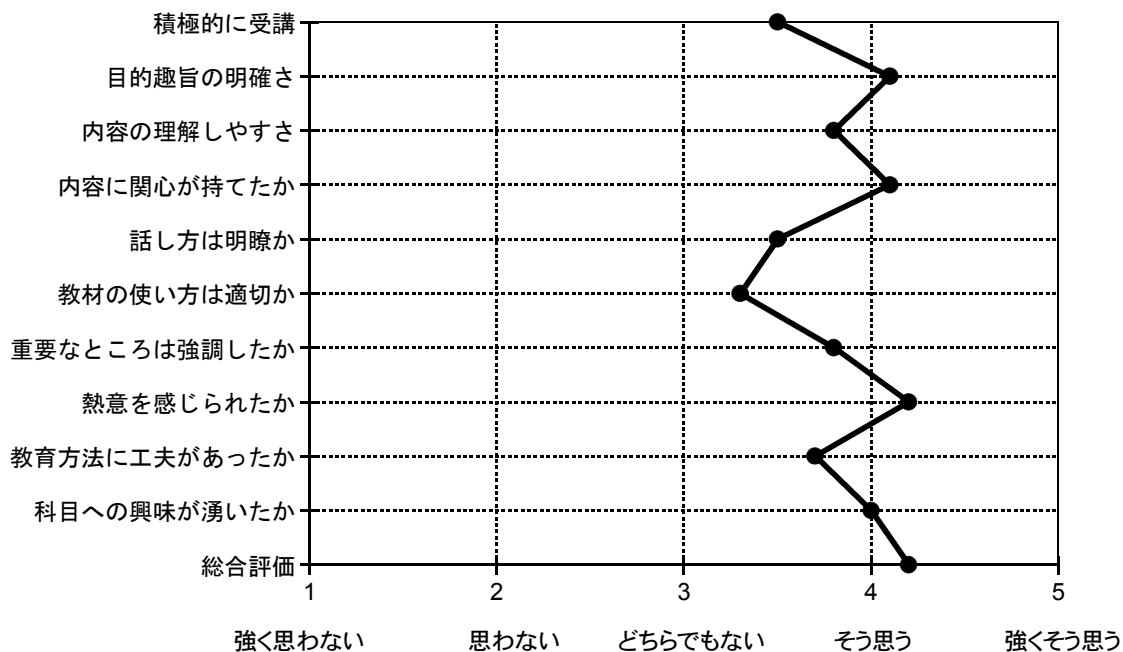
本講義は、特別支援教育の現状を知り、障害児・者の正しい理解と認識を深めるとともに、特別支援教育の本質及び、目標と今日的課題を理解できることを目的としている。

多様な障害に関する知識と、それらの特別な支援を必要とした幼児・児童・生徒に対する授業を考えることができる思考、またこれらの特別な支援を必要とした幼児・児童・生徒と適切なコミュニケーションを行うことができる技能、今後、特別な支援を必要とした幼児・児童・生徒に携わろうと思える意欲と関心、さらに特別支援教育を内包した教育としての教育に携わる教員としての態度を獲得することを目標としている。

- 1) 「障害」を見る視点 1
- 2) 「障害」を見る視点 2
- 3) 「障害」を見る視点 3
- 4) 「障害」を見る視点 4
- 5) 介護等体験の概要
- 6) 視覚障害児の教育
- 7) 聴覚障害児の教育
- 8) 知的障害児の教育
- 9) 自閉症スペクトラム障害児の教育
- 10) 肢体不自由児の教育
- 11) 特別支援教育と医学の接点
- 12) 学習障害児の教育
- 13) 注意欠陥多動性障害児の教育
- 14) 重度重複障害児の教育
- 15) 特別支援教育と学級経営
- 16) 最終試験

2. 授業の内容

授業は下記の流れと内容で実施した。



図：受講生対象のアンケート結果

3. 今年度の改善点

昨年度、着座による出席取りを行うと、出席取りのタイミングによって、遅刻が見逃されている、遅刻の取り方が不公平だったとの意見があったため、学生証による電子的な出席方法を取り入れた。しかし、教室の入口が狭く、資料を渡す作業と出席取りのために行列ができてしまい、授業開始直前では教室に入ることができないと事態が生じた。今年度、共通教育のグリーンホールが法文学部によって先に予約されてしまったため、狭い教室での講義となってしまったので、次年度は解決できるものと考えたい。また昨年度のアンケートで評価の方法について、最終試験をマークシート試験としたところ、授業内容とそぐわないとの意見があったため、記述式の問題を2問追加した。

4. 評価

図に受講生を対象に行ったアンケートの結果を掲載した。おおむね高い評価であった。特に「内容に関心が持てた」「熱意が感じられた」の高い評価はうれしく思う。一方で「教材の使い方」「話し方の明瞭さ」「積極的に受講」の評価は他の評価項目に比べて低い評価であった。

次に自由記述欄であるが「複数の先生から同じ障害の説明があり、違った視点で知ることができたことが良かった」「先生の熱意がとても伝わってきて、授業内容を理解したいという意欲が湧いた」等といった授業に対する肯定的な意見が見られた。しかし一方で、「先生の価値観を根拠もなく押しつけられたように感じた」「それぞれの障害の状態がわかる映像が欲しい」「講義ごとにばらばらに内容が取り上げられることがあり、内容を講義ごとに揃えて欲しい」「それぞれの障害ごとに、どこまで知るべきか、理解するべきかの深さが教員ごとに異なり、学びにくい」といった指摘も見られた。

授業運営に関しては、カードタッチ方式での出席確認に対して、批判的な意見が数多く見られた。「座席表は無意味では?」「カードリーダーが2つしかなく、列に並んでいたら、遅刻扱いになってしまった」「資料配付の場所とカードタッチの

場所を離してはどうか」等の意見があった。使用する教材についても多くの意見があり、「もう少しテキストを多く使って欲しい」「プリントが多すぎる」との指摘があった。さらに「スライドの文字が小さすぎて見えない時があった」「マイクの音量が小さくてわかりずらかった」「先生の声が小さく熱意が感じられない」「先生の声が小さかったり、マイクに雑音が入り集中力が欠けた」との指摘もあった。

昨年度と最終評価の方法を変え、記述式問題を増やしたことについては、一切の記述がなかった。最終評価の方法についてはおおむね納得できる方法となったのではないかと考えた。

5. 総合評価

今年度、受講者数は223名であり、多人数ゆえの問題がより顕在化していることは否めない。特に出欠席や遅刻の確認方法については、解決方法を見いだせていない。数年前から、いわゆる生涯学習群の学生の内、小・中学校の教員免許を取得しようという学生が急増し、受講者数が大幅に増えた。そうした状況に合わせた根本的な解決としては、2クラスに分け受講者を半分にするなど抜本的な解決方法しかないようにも思える。

